

## メダン市派遣

藤村昌輝

日本から 5000km も離れたところに行くのは初めてだったので、行けると決まった時は、とても嬉しい反面、とても不安でした。トイレに紙はあるのか、食べ物は体に合うだろうか、気候は体に合うだろうかと思いつけていました。それでも派遣に向けて綿密に準備をしていく内に、仲間との仲も深まり、段々とその不安は薄れていきました。

そしてついに出発の前夜、荷造りを必死で終わらせると、ぐっすり寝てしまいました。当日の朝は皆に今までありがとう、と言って、成田空港からインドネシアのメダン市へ飛び立ちました。途中で経由したシンガポールのチャンギ空港では、見渡す限り外国人で、もう日本語は通じないのか…と怖気づきつつ、今までに無い体験に胸を躍らせていました。シンガポールからインドネシアの乗り継ぎ便では、異常に冷房の効いた機内で凍えながら、メダン市長さんや、ホストファミリーの方々に会った時の為に一生懸命インドネシア語での自己紹介の練習に励んでいました。

インドネシアのクアラナム空港に着くと、ホストファミリーの方々が迎えに来て下さっていて、ずっとどんな方か気になっていただけに、優しいホストブラザーのアジス君を見て安心しました。

その日の夕食は、疲れていたもので、軽いパンを食べただけでしたが、帰り道はスコールに遭い、物凄く沢山の雷が落ちて家が突然停電したりして、早速インドネシアの熱帯雨林気候の洗礼を受けました。

市内観光では、どうして今まで知らなかったのか不思議に思ってしまう程美しくて壮大なモスクや、綺麗な宮殿、剥製や有名人のサイン等を集めた博物館等、初めて見る物ばかりで驚かされっぱなしでした。

モスクでお祈りしている人を見たり、宮殿でインドネシアの伝統衣装を体験したりした事は二度と出来ないであろう貴重な体験です。

又、行く前はあまり口に合わないと言われていたインドネシア料理も、食べてみると美味しい物が沢山あり、僕は牛肉団子の入ったスープの『バクソスープ』が大好きになりました。とは言え、やはり青唐辛子の入った、今まで味わったことが無い程の辛さの料理があったり、甘いお茶だったり、カルチャーショックを受けざるを得ない物もありました。でもそれを、身をもって体験できた事は一生の思い出です。

フルーツは思った通り新鮮で、全てが絶品でした。見たことが無いフルーツがいっぱいあり、色

彩豊かで日本で見られない物も多くありました。

トバ湖への小旅行ではブリヂストンのゴム農園を訪れて、テレビや教科書でのみ見た事のあった光景を目の当たりにして感動しました。実際にゴムの木から抽出する工程や、それを加工する工程は中々目にする事のない物だと思いました。

トバ湖は標高が高い為、寒くて上着着が必要な程でした。水は透き通っていて、大きくて、その湖上を船で航行するのはとても気持ち良かったです。

サモシール島は、かつて住んでいた民族の文化が根付いていて、神聖な雰囲気にも包まれていました。

このようにしてインドネシアの衣食住を体で感じていくうちに、長くて短い 10 日間はあっという間に過ぎ去っていました。

空港のお別れの時は、インドネシアの思い出が浮かんで、泣いてしまいました。

在メダン日本総領事館を訪れた際に総領事さんがおっしゃった事から気づかされましたが、僕はこうしてインドネシアを訪れた事で、様々な経験をしていく中でインドネシアと日本の文化や人における違いや共通点を見つけていました。それによって僕は日本を客観的に見られる様になりました。

本当に行けて良かったと思います。

